

検査・測定実習の進め方 ～指導者向け概要説明～

奈良学園大学 作業療法学専攻

R5年度 3年生実習（3期生）

令和5年8/28（月）～9/1（金）臨地にて5日間実施

検査・測定実習の説明

：SV会議用 短縮版

- 本実習は**臨床実習指導者講習会受講済み**の先生にご指導頂く実習です。
- 本実習は3年生の前期と後期の間に実施いたします。評価学は習得し、治療学の一部を学び終えた時期に相当します。
- 学生は前期にOSCEにて臨床技能を一部経験していますが、**対象者様の身体に初めて触らせて頂く実習**となります。
- 指導者の評価場面を**見学し模倣、実施**する実習です。
- 評価実習前に先駆け検査・測定技能を体得することが目的です。
- また、指導者の臨床思考プロセスを学生にご教授願います。

検査・測定実習ので使う学習資料

別紙資料 F

Vol. 2.0

奈良学園大学保健医療学部リハビリテーション学科
作業療法学専攻

検査・測定実習ワークブック (令和5年度)

保健医療学部 リハビリテーション学科

〒631-8524 奈良県奈良市中登美ヶ丘3丁目15-1

TEL 0742-95-9800 (代表)

Mail ngu-reha@naragakuen-u.jp (実習管理センター)

学籍番号 () 氏名 ()

学内担当教員 ()

評価経験シート

項目	日付			
	/	/	/	
面接				
観察 (※)				
上肢長				
上肢周径				
下肢長				
下肢周径				
関節可動域測定 (上肢)				
関節可動域測定 (下肢)				
徒手筋力検査 (上肢)				
徒手筋力検査 (下肢)				

様式2 (一部改変)

奈良学園大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻
検査・測定実習 (令和5年度 3年次) 学生氏名: _____

振り返りノート

日付	本日の感想 (学んだことや経験した事柄に対する自身の考え, 明日以降の目標など)	指導者コメント
/		
/		

検査・測定実習ので使う学習資料

1日2枚程度

検査・測定分析シート		記入例
日付: 年 月 日		
学生氏名:		
対象者情報	A氏 70歳代後半 性別 (男)・女	
主病名	脳梗塞 (右内包、被殻梗塞)	
障害名	左片麻痺	
合併症	特になし	
その他の医学的情報 (他職種情報)	○月×日発症。以前より高血圧症と心房細動を指摘されていた。現在経過は良好につき、回復期病棟に転棟。現在血圧等安定しており、禁忌事項は特になし。	
主観的情報 (S) 対象者のニーズ	シャツの着替えがスムーズにできるようになりたい。	
選択した評価方法とその理由	BRS (麻痺による影響の確認) 〔上肢、手指の触覚と深部感覚の検査 (感覚障害の影響の確認)、ROMテスト (可動域制限による影響の確認)〕	
客観的情報 (O) 検査・測定から得られた情報	BRS 上肢V/手指IV 〔上肢は触覚、深部覚とも問題なし。手指は触覚と位置覚が鈍麻し、指尖部を中心にしびれ感あり。可動域は問題なし。〕	
評価 (A) 上記の情報から得られた情報をもとに分析や解釈を行った総合的な評価	臨床実習指導者の説明を受け、検査・測定の結果から導かれる評価を学ぶ 更衣時の座位バランスは良好で、麻痺側の袖を通したり襟を手繰りながら非麻痺側の袖を通すことも可能。麻痺の影響はあるが、上肢がVなので、時間をかけて手順通り行えば大きな問題にはならない。 〔シャツがスムーズに着替えられないのは、手指の運動麻痺の影響の他に、ボタンを留める際にしびれを含む感覚障害から、穴にうまくボタンを合わせる事が難しいことや、服の端をつまんでいる感覚が判りにくいことが原因になっている〕	
治療計画 (P) 評価に基づいて決定した治療の方針・内容、指導など	臨床実習指導者の説明を受け、評価から得られた治療方針・治療計画の立て方を学ぶ しびれに対しては脱感作療法を試みている。ボタンの留めにくさは視覚による代償が可能なので、できるだけ見ながらボタンを留めることと、鏡の利用を促している。	

検査・測定分析シート		記入例
日付: 年 月 日		
学生氏名:		
対象者情報	A氏 70歳代後半 性別 (男)・女	
主病名	脳梗塞 (右内包、被殻梗塞)	
障害名	左片麻痺	
合併症	特になし	
その他の医学的情報 (他職種情報)	○月×日発症。以前より高血圧症と心房細動を指摘されていた。現在経過は良好につき、回復期病棟に転棟。現在血圧等安定しており、禁忌事項は特になし。	
主観的情報 (S) 対象者のニーズ	シャツの着替えがスムーズにできるようになりたい。	
選択した評価方法とその理由	BRS (麻痺による影響の確認) 〔上肢、手指の触覚と深部感覚の検査 (感覚障害の影響の確認)、ROMテスト (可動域制限による影響の確認)〕	
客観的情報 (O) 検査・測定から得られた情報	BRS 上肢V/手指IV 〔上肢は触覚、深部覚とも問題なし。手指は触覚と位置覚が鈍麻し、指尖部を中心にしびれ感あり。可動域は問題なし。〕	

検査・測定実習ので使う学習資料

1日2枚程度

検査・測定分析シート

記入例

日付： 年 月 日

学生氏名：

対象者情報 A 氏 70 歳代

主病名 脳梗塞（右内包、被殻）

障害名 左片麻痺

合併症 特になし

その他の医学的情報（他職種情報）
○月×日発症。以前より経過は良好につき、回復忌事項は特になし。

主観的情報（S）
対象者のニーズ
シャツの着替えがスムーズ

選択した評価方法とその理由
BRS（麻痺による影響）
〔上肢、手指の触覚と深部覚（可動域制限による）〕

客観的情報（O）
検査・測定から得られた情報
BRS 上肢 V / 手指 IV
〔上肢は触覚、深部覚。指尖部を中心にしびれあり〕

評価（A）
上記の情報から得られた情報をもとに分析や解釈を行った総合的な評価

治療計画（P）
評価に基づいて決定した治療の方針・内容、指導など

臨床実習指導者の説明を受け、検査・測定の結果から導かれる評価を学ぶ

更衣時の座位バランスは良好で、麻痺側の袖を通したり襟を手練りながら非麻痺側の袖を通すことも可能。麻痺の影響はあるが、上肢がVなので、時間をかけて手順通り行えば大きな問題にはならない。

〔シャツがスムーズに着替えられないのは、手指の運動麻痺の影響の他に、ボタンを留める際にしびれを含む感覚障害から、穴にうまくボタンを合わせることが難しいことや、服の端をつまんでいる感覚が判りにくいことが原因になっている〕

臨床実習指導者の説明を受け、評価から得られた治療方針・治療計画の立て方を学ぶ

しびれに対しては脱感作療法を試みている。ボタンの留めにくさは視覚による代償が可能なので、できるだけ見ながらボタンを留めることと、鏡の利用を促している。

検査・測定実習ので使う学習資料

検査・測定分析シート		記入例
日付: 年 月 日		
学生氏名:		
対象者情報	A氏 70歳代後半 性別 (男)・女	
主病名	脳梗塞 (右内包、被殻梗塞)	
障害名	左片麻痺	
合併症	特になし	
その他の医学的情報 (他職種情報)	○月×日発症。以前より高血圧症と心房細動を指摘されていた。現在経過は良好につき、回復期病棟に転棟。現在血圧等安定しており、禁忌事項は特になし。	
主観的情報 (S) 対象者のニーズ	シャツの着替えがスムーズにできるようになりたい。	
選択した評価方法とその理由	BRS (麻痺による影響の確認) 〔上肢、手指の触覚と深部感覚の検査 (感覚障害の影響の確認)、ROMテスト (可動域制限による影響の確認)〕	
客観的情報 (O) 検査・測定から得られた情報	BRS 上肢V/手指IV 〔上肢は触覚、深部覚とも問題なし。手指は触覚と位置覚が鈍麻し、指尖部を中心にしびれ感あり。可動域は問題なし。〕	
評価 (A) 上記の情報から得られた情報をもとに分析や解釈を行った総合的な評価	臨床実習指導者の説明を受け、検査・測定の結果から導かれる評価を学ぶ 更衣時の座位バランスは良好で、麻痺側の袖を通したり襟を手繰りながら非麻痺側の袖を通すことも可能。麻痺の影響はあるが、上肢がVなので、時間をかけて手順通り行えば大きな問題にはならない。 〔シャツがスムーズに着替えられないのは、手指の運動麻痺の影響の他に、ボタンを留める際にしびれを含む感覚障害から、穴にうまくボタンを合わせる事が難しいことや、服の端をつまんでいる感覚が判りにくいことが原因になっている〕	
治療計画 (P) 評価に基づいて決定した治療の方針・内容、指導など	臨床実習指導者の説明を受け、評価から得られた治療方針・治療計画の立て方を学ぶ しびれに対しては脱感作療法を試みている。ボタンの留めにくさは視覚による代償が可能なので、できるだけ見ながらボタンを留めることと、鏡の利用を促している。	

- 学生は実習で5日間で合計10枚の「**検査・測定分析シート**」を作成いたします。
- 指導者の先生は、分析シートの作成に際して、**評価の解説**や**臨床思考過程**についてご説明願います。
- 学生は、このうち1つを選択し、事後セミナーにて、経験し学んだ評価（検査・測定）と作業療法士の臨床思考過程をプレゼン発表致します。

もくじ 説明：詳細版

- 検査・測定実習の概要
- 指導者の先生へのお願い（本実習における指導内容）
- 実習初日にお受け取り頂きたい書類
- 本実習の作成物について
- 実習中の一日の流れ（例）
- 本実習の評定方法について

【ご注意】 本実習は**臨床実習指導者講習会受講済み**の先生にご指導を頂く実習です。

検査・測定実習の概要

<目的>

作業療法が実践されている病院や施設において、臨床実習指導者の指導の下で、学内で修得した基礎的・専門的知識とこれまでの臨床実習の経験を踏まえて、見学および体験実習を行う。臨床現場で作業療法士が行う評価や治療場面を見学し、基本的な検査や測定の手順を体験することで、これまでに学修した知識・技術を再確認すると共に、重要性を理解する。また、臨床現場における一連の作業療法過程を具体的な事例から学ぶ。帰校後は、実習セミナーを開催し、担当症例に関する報告や意見交換を行う。発表内容は症例レポートとして提出する。

検査・測定実習の概要

<到達目標>

- 1) 臨床実習指導者の指導の下での見学および体験を通じて、検査・測定方法（面接・観察等を含む）の正しい手順を説明できる。
- 2) 学内教育で学んだ疾患特性や検査・測定およびその結果を踏まえた対象者像の把握の重要性について説明できる。
- 3) 作業療法実践における評価および治療計画の立案に至る過程を説明できる。
- 4) 作業療法学生ならびに医療人あるいは社会人として対象者・医療スタッフに対して適切な態度をとることができる。

指導者の先生へのお願い (本実習における指導内容)

- 学生には、以下のようにご指導賜りたく存じます。
 - 指導者の通常の臨床行為に学生を同席させて下さい
 - 主に、検査・測定を通じて評価の体験を学生にさせてください
 - 検査・測定分析シートに沿い、学生が評価を理解できるようご指導願います
 - 検査・測定分析シートの作成過程や清書後に適宜ご指導願います
 - 検査・測定分析シートを含む検査・測定実習ワークブックの完成が本実習の主な目的となります (一日2枚を標準とする)
 - 学生による検査・測定等の評価は指導者の先生の監督下のもと実施願います
 - 検査・測定分析シート以外の自己学習については学習ポートフォリオとして、学生自身がまとめファイリングすることとなっております
 - 毎朝、学生が提出する学習成果物のご確認とご指導をお願いいたします
 - 学生は、帰宅後の学習時間は1時間程度を標準としております

指導者の先生へのお願い (本実習における指導内容) その2

- 毎朝、学生が提出する検査・測定実習ワークブック（以下WB）をお受け取り頂きご確認願います。以下WB内に掲載されています
 - 振り返りノートのご確認を頂き指導者コメントをご記載願います
 - 清書した検査・測定分析シートをご確認頂き適宜ご指導願います
 - 評価経験シートをご確認頂き、学生が経験した評価項目を「正」の字でご記載願います（学生に記載させても構いません）
 - 出席表の押印をお願いいたします
 - 実習最終日には、出席表下段の「臨床実習指導者実習終了時コメント欄」をご記入願います

実習初日にお受け取り頂きたい書類

- 実習学生個人資料（実習中に必ず学生にご返却願います）
- 実習目標シート
- 個人情報保護に関する誓約書（本学指定）
- 検温・行動記録カード（毎日学生に返却願います）
- その他資料
 - ▶ 貴施設が指定する誓約書やワクチン等接種証明書など

本実習の作成物について

- 本実習は検査・測定実習ワークブックの完成が成果物としての目標となります
- また、これ以外に学生は実習中学んだことを自己学習として適宜まとめファイリングをいたします（ポートフォリオ）
- 実習終了後、学内事後セミナーにて、学生は検査・分析シートから一つを選び、PowerPointを用いて症例報告として発表します

実習中の一日の流れ（例）

- 下の表は実習中の一日の流れの例です
- あくまで例ですので、実習施設ごとに適宜調整していただいて構いません

始業	午前	昼休み	午後	終業まで
<ul style="list-style-type: none">● WBをSVに提出● SVからのFB	<ul style="list-style-type: none">● 臨床見学● 検査・測定模倣● 種々の臨床体験● WB作成	<ul style="list-style-type: none">● 昼食	<ul style="list-style-type: none">● 臨床見学● 検査・測定模倣● 種々の臨床体験● WB作成	<ul style="list-style-type: none">● WB作成● WBをSVに提出● SVからのFB

※WB；ワークブック、SV；スーパーバイザー（臨床実習指導者）、FB；フィードバック

本実習の評定方法について

- 本学の実習の評定は学内にて行います
- 評定基準は実習の到達目標に沿い以下のように設定していますので学生指導の際はご参考にさせていただけたらと存じます
 - ① 検査・測定方法の正しい手順を説明できる。
 - ② 対象者像の把握の重要性について説明できる。
 - ③ 評価及び治療計画の立案に至る過程を説明できる。
 - ④ 作業療法学生ならびに医療人・社会人としての行動がとれる。
 - ⑤ 事後セミナーにおいて積極的に質疑応答、意見交換を行う。
- 実習中の学生状況については、WBの最後「臨床実習指導者実習終了時コメント欄」にてご記入いただきます

実習に関するお問い合わせ先

本実習に関するご質問、ご不明な点に関しましては以下にお問い合わせください。

担当教員から改めてご連絡いたします。

〒631-8524 奈良県奈良市中登美ヶ丘3丁目15-1

TEL 0742-95-9800 (代表)

Mail ngu-reha@naragakuen-u.jp (実習管理センター)